

《学部消息》

教授会メモ

3月18日（水）定例教授会
理学部4号館（1320号室）

議 題

- (1) 人事異動報告
- (2) 平成3年度卒業者の決定について
- (3) 学部学生の休学について
- (4) 学部学生の転学部について
- (5) 学部研究生の入学について
- (6) 学部研究生の期間延長について
- (7) 平成4年度受託研究員の受入れについて
- (8) 教務委員会報告
- (9) 人事委員会報告
- (10) 会計委員会報告
- (11) 企画委員会報告
- (12) 理学院計画委員会報告
- (13) その他

4月15日（水）定例教授会
理学部4号館（1320号室）

議 題

- (1) 人事異動報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 平成4年度私学研修員の受入れについて
- (4) 人事委員会報告
- (5) 会計委員会報告
- (6) 企画委員会報告
- (7) 理学院計画委員会報告
- (8) その他

5月20日（水）定例教授会
理学部4号館（1320号室）

議 題

- (1) 人事異動報告
- (2) 物品寄附の受入れについて
- (3) 平成4年度受託研究員の受入れについて
- (4) 教務委員会報告
- (5) 企画委員会報告
- (6) 理学院計画委員会報告
- (7) その他



人事異動報告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	助教授	桑島邦博	4. 3.16	昇任	北海道大学助手より
〃	教授	宮本健郎	4. 3.31	停年	
〃	〃	山本祐靖	〃	〃	
〃	〃	和田靖	〃	〃	
地球惑星	〃	玉尾孜	〃	〃	
化学	〃	黒田晴雄	〃	〃	
生物化学	〃	酒井彦一	〃	〃	
動物	〃	高橋景一	〃	〃	
天文研	助教授	近藤雅之	〃	〃	
地球惑星	教授	寺澤敏夫	4. 4. 1	昇任	京都大学助教授より
〃	〃	山岬正紀	〃	転任	気象庁気象研究所研究室長より
物理	〃	福山秀敏	〃	配置換	物性研究所教授より
化学	〃	梅澤喜夫	〃	〃	北海道大学教授より
情報科学	助教授	萩谷昌己	〃	転任	京都大学助教授より
地球惑星	〃	松田佳久	〃	〃	気象庁気象大学校助教授より
数学	〃	斎藤毅	〃	昇任	講師より
〃	〃	河東泰之	〃	〃	〃
〃	〃	中山昇	〃	〃	〃
化学	教授	増田彰正	〃	配置換	電気通信大学教授へ
数学	〃	加藤和也	〃	〃	東京工業大学教授へ
〃	〃	川又雄二郎	〃	〃	数理科学研究科教授へ
〃	〃	落合卓四郎	〃	〃	〃
〃	〃	松本幸夫	〃	〃	〃
〃	〃	砂田利一	〃	〃	〃
〃	〃	小松彦三郎	〃	〃	〃
〃	〃	大島利雄	〃	〃	〃
〃	〃	小谷眞一	〃	〃	〃
〃	〃	俣野博	〃	〃	〃
〃	助教授	黒川信重	〃	〃	数理科学研究科助教授へ
〃	〃	斎藤毅	〃	〃	〃
〃	〃	中山昇	〃	〃	〃
〃	〃	坪井俊	〃	〃	〃
〃	〃	深谷賢治	〃	〃	〃
〃	〃	片岡清臣	〃	〃	〃
〃	〃	長田博文	〃	〃	〃
〃	〃	河東泰之	〃	〃	〃

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
数 学	助 教 授	堤 誉志雄	4. 4. 1	配 置 換	数理科学研究科助教授へ
情 報 科 学	〃	前 川 守	〃	昇 任	電気通信大学教授へ
生 物 化 学	〃	溝 淵 潔	〃	〃	〃
天 文	教 授	小 平 桂 一	〃	併 任	本務：国立天文台教授 期限：5.3.31まで
〃	〃	安 藤 裕 康	〃	〃	〃
〃	〃	宮 本 昌 典	〃	〃	〃
〃	〃	森 本 雅 樹	〃	〃	〃
〃	助 教 授	家 正 則	〃	〃	本務：国立天文台助教授 期限：5.3.31まで
〃	〃	佐 藤 修 二	〃	〃	〃
〃	〃	藤 本 眞 克	〃	〃	〃
〃	〃	中 島 弘	〃	〃	〃
〃	〃	前 原 英 夫	〃	〃	〃
素 粒 子	客 員 教 授	清 水 詔 光	〃	〃	本務：高エネルギー物理学研究 所教授 期限：5.3.31まで
〃	〃	武 田 廣	〃	〃	本務：神戸大学教授 期限：5.3.31まで
〃	客 員 助 教 授	竹 下 徹	〃	〃	本務：信州大学助教授 期限：5.3.31まで
中 間 子	〃	石 田 勝 彦	〃	委 嘱	本務：理化学研究所研究員 期限：5.3.31まで
地 球 惑 星	助 教 授	松 井 孝 典	4. 4. 16	昇 任	助手より
化 学	教 授	太 田 俊 明	4. 5. 1	配 置 換	広島大学教授より
生 物 化 学	〃	溝 淵 潔	〃	併 任	本務：電気通信大学教授 期限：5.3.31まで
地 球 惑 星	助 教 授	阿 部 豊	〃	昇 任	名古屋大学助手より
地 質	教 授	棚 部 一 成	4. 5. 16	〃	助教授より
地 理	助 教 授	池 田 安 隆	〃	〃	講師より
天 文 研	助 教 授	常 田 佐 久	〃	〃	助手より

(助 手)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理	助 手	横 山 順 一	4. 2. 29	復 職	
植 物	〃	高 野 博 嘉	4. 3. 1	採 用	
物 理	〃	横 山 順 一	4. 3. 16	昇 任	京都大学助教授へ
〃	〃	長 山 好 夫	4. 3. 28	復 職	
〃	〃	香 取 眞 理	4. 3. 31	辞 職	
〃	〃	下 浦 享	〃	〃	
化 学	〃	日 高 洋	〃	〃	
物 理	〃	黒 木 和 彦	4. 4. 1	採 用	
〃	〃	川 島 直 輝	〃	〃	

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理	助 手	磯 暁	4. 4. 1	採 用	
化 学	〃	鳥 居 肇	〃	〃	
〃	〃	草 間 博 之	〃	〃	
〃	〃	佐々木 岳 彦	〃	〃	
天 文 研	〃	片 堅 宏 一	〃	〃	
物 理	〃	河 野 浩	〃	配 置 換	物性研究所助手より
数 学	〃	岩 崎 克 則	〃	昇 任	教養学部助教授へ
〃	〃	中 島 啓	〃	〃	東北大学助教授へ
物 理	〃	常 行 真 司	〃	〃	物性研究所助教授へ
〃	〃	長 山 好 夫	〃	〃	筑波大学講師へ
天 文	〃	田 中 济	〃	〃	国立天文台助教授へ
鉦 物	〃	留 岡 和 重	〃	〃	神戸大学助教授へ
化 学	〃	市 田 光	〃	転 任	分子科学研究所助手へ
数 学	〃	小 木 曾 啓 示	〃	配 置 換	数理科学研究科助手へ
〃	〃	中 村 博 昭	〃	〃	〃
〃	〃	河 澄 響 矢	〃	〃	〃
〃	〃	大 津 幸 男	〃	〃	〃
〃	〃	大 槻 知 忠	〃	〃	〃
〃	〃	牛 腸 徹	〃	〃	〃
〃	〃	宇 澤 達	〃	〃	〃
〃	〃	藤 原 一 宏	〃	〃	〃
〃	〃	武 部 尚 志	〃	〃	〃
〃	〃	石 村 直 之	〃	〃	〃
〃	〃	清 野 和 彦	〃	〃	〃
〃	〃	東海林 まゆみ	〃	〃	〃
化 学	〃	セグラ・ヤニック	4. 4. 7	辞 職	
素 粒 子	〃	森 井 政 宏	4. 4.16	採 用	
情 報	〃	フル・マイケル ・エドワード	4. 4.30	辞 職	

(職 員)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
地 質	事 務 官	前 川 深 雪	4. 3.31	定 年	
植 物 園	技 官	鈴 木 實	〃	〃	
物 理	〃	中 村 昭 彦	〃	辞 職	
事 務 部	事 務 官	増 田 真由美	〃	〃	
数 学	〃	小 谷 裕 子	〃	〃	
事 務 部	事務長補佐 (経理担当)	北 川 嘉 一	4. 4. 1	昇 任	生産技術研究所経理課長へ
〃	庶務掛長	浅 見 新 吉	〃	配 置 換	医学部人事掛長へ

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
事 務 部	教務掛長	金 子 博	4. 4. 1	配 置 換	教養学部教務課大学院第二掛長へ
”	司計掛長	根 本 豊 作	”	”	生産技術研究所経理課司計掛長へ
”	給与掛長	北 英 介	”	”	医科学研究所経理課用度掛長へ
数 学	事務室主任	菊 地 博 子	”	昇 任	教養学部総務課数理科学総務掛長へ
事 務 部	事 務 官	鹿 又 仁 郎	”	配 置 換	庶務部人事課へ（同日付文部省教育助成局地方課併任）
”	”	久保田 隆	”	”	庶務部人事課へ（同日付文部省高等教育局大学課転任）
”	”	河 野 広 幸	”	”	経理部主計課へ（同日付文部省国際学術局研究機関課併任）
”	技 官	利根川 伸 一	”	昇 任	施設部電気・通信設備課電気第四掛施設主任へ
数 学	”	吉 永 恵 子	”	”	教育学部図書運用掛長へ
”	”	藤 田 昌 子	”	配 置 換	教養学部総務課へ
”	事 務 官	川 島 香 絵	”	”	”
”	技 官	池 澤 順	”	”	教養学部図書課へ
”	事 務 官	山 崎 直 子	”	”	”
情 報	”	高 橋 喜 博	”	”	庶務部人事課任用第三掛へ
化 学	”	黒 須 仁 子	”	”	文学部図書第一掛へ
地 球 惑 星	教務職員	工 藤 恵	”	転 任	東京工業大学教務職員へ
事 務 部	事務長補佐 (経理担当)	金 田 洪 太	”	昇 任	地震研究所会計主任より
”	庶務掛長	根 岸 茂	”	転 任	大学入試センター管理部庶務課人事係長より
”	教務掛長	大 谷 晴 美	”	昇 任	大学院掛主任より
”	司計掛長	安 蒜 恒 夫	”	転 任	高エネルギー物理学研究所管理部研究協力課研究協力第一係長より
”	給与掛長	長谷川 健 次	”	配 置 換	文学部用度掛長より
”	庶務掛主任	竹 村 三和子	”	昇 任	庶務掛より
”	大学院掛主任	小野塚 朗	”	”	経済学部大学院掛より
物 理	事務室主任	佐々木 陽 子	”	”	物理学科より
”	”	当 山 千鶴子	”	”	物理学科より
生 物 化 学	”	谷 本 薫	”	”	生物化学科より
植 物 園	”	平 原 茂 子	”	”	植物園より
事 務 部	事 務 官	今 井 佳代子	”	配 置 換	庶務部人事課任用第一掛より
”	”	小 島 寿 子	”	勤 務 換	数学科より
”	”	管 波 明 子	”	配 置 換	中間子科学研究センターより
”	技 官	白 井 論	”	”	施設部機械設備課機械第一掛より
情 報	事 務 官	松 浦 融	”	”	庶務部庶務課広報掛より
化 学	”	石 田 あゆみ	”	採 用	”
中 間 子	技 官	平 野 みどり	”	配 置 換	数学科より
事 務 部	事 務 官	吉 田 知枝子	4. 5. 1	採 用	”

博士（理学）学位授与者

平成4年3月16日付学位授与者（7名）

専攻	氏名	論文題目
地球物理学 論文博士	沼口 敦	熱帯における積雲活動の大規模構造に関する数値実験
論文博士	高木 利一	モジュラー曲線 X_1 (pm) 尖点類数公式
論文博士	高山 信毅	Euler-Darboux 方程式の解の特異性伝播とそのホロノミック解の大域的構造
論文博士	林 雄二郎	キラルなチタン化合物を用いる不斉触媒反応の開発：エン反応，マイケル反応，[2+2] 付加環化反応
論文博士	宮田 愛彦	熱ショック蛋白質 HSP90 の機能：複合体形成によるステロイド受容体及びカゼインキナーゼ 11 の機能制御
論文博士	内海 渉	焼結ダイヤモンドアンビルを用いた高圧技術の開発及び黒鉛-六方晶ダイヤモンド変換の研究
論文博士	山下 哲郎	ウシ腎皮質 Na^+ / H^+ - アンチポーターの精製

平成4年3月30日付学位授与者（118名）

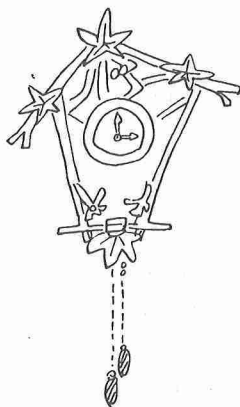
専攻	氏名	論文題目
数 学	石川 雅雄	混合ロビンソン-シェンステッド対応とそのフォシンの一般化及び (A,B) 半正規盤における混合クヌース対応の研究
数 学	服部 俊昭	$\text{SO}(3) \setminus \text{SL}(3, \mathbb{R})$ の合同部分群による商空間の幾何
数 学	山岸 正和	代数体の分岐を制限した最大 pro-p 拡大のガロア群について
数 学	阿原 一志	コンピューターの応用によって得られた数学の定理
数 学	榮田 厚彦	超分布の調和解析
数 学	木原 浩	球面上の球面ファイバー空間の幾何学的トポロジー
数 学	今野 宏	リーマン面上の安定 Parabolic IIiggs 束のモジュライ空間の構成について
数 学	佐伯 明洋	解析空間上の葉層構造
数 学	佐藤 猛	ホロックス-マンフォード軌道体上の平坦な正則共形構造
数 学	染川 睦郎	Log-syntomic regulator と P 進 Polylogarithm
情報科学	李 圭 宰	属性文法に基づいた図面認識の方法
情報科学	芦原 評	分散システムにおける動的負荷分散
情報科学	金 那 美	幾何学的制約度を考慮した会話型図形編集システム
物理学	水谷 晶彦	レーザー干渉計を用いた共振型重力波検出器の開発
物理学	シルバジェラルドマジェラ	伝導性高分子中の動いているソリトンと鎖間相互作用
物理学	石田 邦夫	2バンド長距離ハバード模型による1次元励起子および励起子分子の研究
物理学	石田 学	質重降着を受ける強磁場白色星の X 線観測

専攻	氏名	論文題目
物理学	岡本 徹	hcp 固体 ³ He の核磁性
物理学	加藤 昌之	中間子と重粒子に対する修正された南部-ジョナーラジニオ模型
物理学	川島 直輝	低温におけるスピングラスの研究
物理学	車 俊之	標準模型における重い粒子による輻射補正
物理学	郡司 修一	新型検出器による SN1987A からの ⁵⁷ Co の線硬 X 線および連続硬 X 線の研究
物理学	洪 鋒 雷	分子の高振動状態間のレーザー発振における不安定性とカオス
物理学	小松原 健	中性 K 中間子の二個のミュオンへの崩壊の分枝比の測定
物理学	酒井 邦嘉	対連合学習に基づく長期記憶の側頭葉ニューロン表現
物理学	泰地 真弘人	波長可変フェムト秒レーザーによるタコロドプシン及びバクテリオロドプシンの光初期過程
物理学	竹島 敏男	X 線パルサーの非周期変動
物理学	多々良 源	t-J 模型における反強磁性と超伝導
物理学	鶴 剛	銀河および小規模銀河団の高温ガス成分の X 線による研究
物理学	徳永 英司	周波数領域の干渉を用いたフェムト秒位相分光
物理学	中村 英史	微分同相写像群上のリーマン幾何学に基づく流体運動の考察
物理学	中津 了勇	有理的及び位相的共形場理論における BRST 対称性について
物理学	成清 修	低電子濃度領域における 2 次元ハバード・モデル
物理学	西岡 毅	減衰する宇宙項と宇宙論
物理学	平野 琢也	パルス光による広帯域スクイズド状態の研究
物理学	福間 将文	非臨界次元上の弦と 2 次元重力における普遍的構造
物理学	松永 悟明	磁化測定による金属・絶縁体転移近傍における不純物半導体の研究
物理学	三沢 和彦	高品質 CdS 微粒子からの励起子超放射
物理学	毛利 健司	2 次元ゲージ理論によって実現される位相不変共形不変模型について
物理学	茂木 健一郎	筋収縮の数理的モデル
物理学	守友 浩	水素結合系分子結晶における協力現象の分光的研究
物理学	山田 章一	自転星のコアの非対称な重力崩壊と爆発
物理学	吉成 洋祐	高温超伝導体の ¹⁷ O 原子核を用いた磁気共鳴法による研究
天文学	カンプリマスプライン	黒点を運動の標識として決定された微分回転の太陽周期変化
天文学	入交 芳久	Eruptive Prominence の多周波同時ミリ波観測
天文学	藤井 紫麻見	SN1987A および他の超新星からの X 線・γ線放射
天文学	藤堂 泰	ハービッグ・ハロー天体とそのうねった構造の電磁流体力学モデル
天文学	廣瀬 雅人	近接連星条における降着円盤の潮汐不安定性
天文学	村上 泉	ミニハーローモデルに基づいたライマン α 雲の進化について
地球物理学	大野 正夫	最近一万年間の地球磁場の研究
地球物理学	海宝 由佳	房総沖海溝三重会合点付近地殻及び上部マントルの地震波速度構造
地球物理学	森山 哲二	伊豆・小笠原弧の木曜海山付近の群発地震活動とその地学的意義

専攻	氏名	論文題目
地球物理学	孫 文科	球対称地球モデルの中におかれた Point Dislocation によって生じるポテンシャルと重力変化
地球物理学	金 栄 変	バルク法に基づく日本近海海面からの熱輸送量の推定に関する研究
地球物理学	及 川 純	伊豆大島火山における観測より推定した火山性微動の発生機構
地球物理学	岡 元 太郎	沈み込み帯の浅い地震の研究に用いる遠地 P 波波形の計算について
地球物理学	小 沢 慎三郎	カンラン石中の 3 価元素とその上部マントルテクトニクスへの関連 (高温高圧実験に基づいて)
地球物理学	河 野 英 昭	太陽風・磁気圏相互作用の研究
地球物理学	酒 井 慎 一	二次元及び三次元速度構造における地震波走時の新しい計算方法—波面伝播法—
地球物理学	田 近 英 一	大気・海洋の進化：グローバル物質循環・マントルの熱的進化・脱ガス史
地球物理学	原 辰 彦	逐次波形インバージョンによる地球内部 3 次元構造の推定
地球物理学	藤 本 正 樹	磁気圏境界面速度勾配層における不安定性の研究
地球物理学	梁 哲 壽	ジオサット人工衛星の高度計によるグローバル海面高の決定とその測地学的、海洋学的解釈
化 学	雨 谷 敬 史	第二の機能部位を導入した水溶性ポルフィリンと DNA との相互作用
化 学	天 川 裕 史	グローバルな見地からのマンガノジュールの生成環境と生成機構：Ce, Nd 及び Sr の同位体比からのアプローチ
化 学	犬 飼 潤 治	大気下及び超高空下 STM による表面構造と化学過程に関する研究
化 学	白 杵 克之助	有機セレン試剤をプローブとする新規生理活性物質の設計とその合成
化 学	大 沢 信 二	水溶液中における準安定硫黄化合物の挙動に関する地球化学的研究—火山学への応用—
化 学	岡 内 辰 夫	金属酸化剤を用いるラジカル種の生成と炭素骨格形成反応への活用
化 学	北 澤 孝 史	シアン化カドミウム系による擬鉱物包接構造
化 学	佐々木 茂	ポリナイトレンを用いた高スピン有機分子へのアプローチ
化 学	佐々木 岳 彦	Ru (001) 上の秩序共吸着系の反応過程
化 学	鳥 居 肇	タンパク質及び液相分子系の文光学的研究
化 学	平 原 靖 大	おうし座分子雲 TMC-1 での分子の分布と化学進化
化 学	森 田 勇 人	光合成反応中心の電子供与体ラジカルカチオンの構造に関する研究
生物化学	石 原 健	セクレチン及び VIP 受容体の構造とその発現
生物化学	中 山 周 一	BF23 ファージ後期遺伝子領域の構造と発現様式の解析
生物化学	四ノ宮 美 保	P- ニトロベンゾイル基による DNA 鎖光切断
生物化学	アタウダセナラツツバンダー バラックラマ	アスパラギン酸プロテイナーゼの構造と機能に関する研究
生物化学	稲 田 利 文	大腸菌 <i>cra</i> , <i>rnc</i> オペロンと <i>suhB</i> 遺伝子の分子遺伝学的研究
生物化学	今 井 義 幸	分裂酵母の接合過程における細胞間相互作用と細胞内情報伝達の分子遺伝学的解析

専攻	氏名	論文題目
生物化学	熊谷道代	原核生物における非相同的組換えの機構に関する分子遺伝学的研究—特にII型トポイソメラーゼ依存性組換えについて
生物化学	小出寛	ヒト上皮成長因子のレセプターとの結合部位の解析
生物化学	河野俊之	アミノアシル tRNA 合成酵素の基質認識機構の解析
生物化学	後藤由希子	MAP キナーゼの細胞周期における活性化と機能
生物化学	杉本亜砂子	分裂酵母の有性生殖過程の開始制御に関与する遺伝子群の解析
生物化学	藤原康策	<u>maf</u> 関連遺伝子, <u>mafK</u> , <u>mafF</u> の解析
生物化学	室屋賢康	神経成長因子 (NGF) からの分化シグナルによる P21 ^{ras} の活性化に関する研究
生物化学	望月伸悦	分裂酵母における cAMP 情報伝達経路に関わる遺伝子の解析
生物化学	吉田哲郎	<u>fra-2</u> 遺伝子の発現制御機構の解析
生物化学	吉原基二郎	ショウジョウバエのトランスポゾン P 因子の転移に関する分子遺伝学的解析
動物学	坂本龍哉	サケ科魚類における成長ホルモンの浸透圧調節作用とその作用機序
動物学	矢田崇	サケ科魚類における成長ホルモンとプロラクチンの合成・分泌調節機構
植物学	池谷透	公海域分布型ラン藻ピコプランクトン <i>Synchococcus</i> spp. の生理学的特性—光および栄養塩環境に対する特性—
植物学	荒木崇	シロイヌナズナの花成遅延遺伝子座 <u>GI</u> の研究
植物学	古明地勇人	分子動力学法によるトリプトファン・リプレッサーの構造と機能の解析
植物学	高橋卓	アラビドプシスにおける熱ショックタンパク質遺伝子発現の分子遺伝学的解析
植物学	西川周一	酵母小胞体—ゴルジ体間輸送に関与する因子の細胞内動態の解析
植物学	牧雅之	日本産シライトソウ属における雌性両性花異株の進化要因の解析
植物学	森下卓	出芽酵母 <u>RAS</u> 遺伝子による細胞増殖の制御
地質学	斎木健一	雌性球果の形態によるスギ科の分岐分類学的研究
地質学	林愛明	断層起源のシュードタキライトの成因
地質学	安建尚	低圧変成岩における新しい変成反応
地質学	岡田誠	西部赤道太平洋における後期更新世の $\delta^{13}C$ 変動
地質学	金仁俊	韓国南西の海南地域に分布する粘土鉱床と熱水変質の地球化学的研究
地質学	重田康成	白亜紀アンモナイト類の初期生活史と古生物地理
地質学	李鍾益	韓国慶尚盆地南部に分布する浅所貫入花崗岩についての岩石学的, 鉱物学的, 同位体的研究
鉱物学	佐藤晴彦	レールガンを用いた斜方輝石の衝撃圧縮実験
鉱物学	田中雅彦	ペロプスカイト関連物質の結晶構造および組織の結晶学的研究
相関理化学	和田重雄	真核生物の鞭毛繊維構成ダイニンの構造と機能に関する研究
相関理化学	山元久典	筋小胞体 Ca^{2+} 輸送 ATPase のヌクレオチド結合部位に関する研究
相関理化学	安藤耕司	極性溶媒の誘電緩和と光誘起電子移動反応に関する分子動力学的研究

専攻	氏名	論文題目
相関理化学	川口 正代司	腫瘍形成に関与するバクテリア型オーキシシン生合成経路の植物における存在
相関理化学	佐藤 恵 春	<i>Pseudomonas fragi</i> における脂肪酸 β 酸化系に関する研究
相関理化学	鈴木 寿 一	準周期チェーンモデルに現れるいくつかの数理-ハイパーインフレーションルールと新しい自己相似多項式-
相関理化学	高見 知 秀	速度分解・角度分解ペニングイオン化電子分光法によるペニングイオン化過程の研究
相関理化学	蓮見 真 彦	有機超伝導体 β (BEDT-TTF) ₂ I ₃ の低温での安定相に関する研究
相関理化学	平田 雅 樹	公理 A 系に対する Poisson の法則



平成3年度 平成4年3月28日卒業生氏名

数 学 科

茅嶋孝大	神田橋宏治	齊藤正浩	葉広和夫	安達久俊
荒川達也	伊豆哲也	大内恒司	小笠英志	小栗邦亮
金子真人	樋口仁巳	松浦篤司	山中弘	柚木輝久
阿久津隆史	石川哲毅	石田敦重	小澤大輔	可知靖之
勝又英俊	加藤聡史	加藤正亮	北村誠宣	熊ノ郷直人
高忠之	後藤聡史	佐々木亮也	志田英浩	篠田正孝
篠田良信	芝山清之	白石哲浩	鈴木康輔	鈴木口健
高瀬統道	高橋正人	武部邦彦	谷中原史	谷川亮
手嶋直彦	戸田栄治	中野司介	古尾谷祐徹	長谷川直人
坂内俊省	深田直木	藤下大丈	水町	細谷波弘
本多公美	山内英敏	渡邊丈夫		巳

58名

情報科学科

菊川健一	秋葉智弘	石黒正揮	江崎智太郎	岡本行生
柿原謙一郎	上谷卓己	小林久浩	佐藤秀幸	白取知樹
鈴木大介	田浦健次朗	高橋成雄	竹内理	武本充治
建部修見	田沼知行	タン・チュン・シー・アン	張良憶	鳥澤健太郎
長塚雅明	奈良部淳一	日置尋久	古川浩史	増原英彦
南田幸紀	宮下健	森洋久		

28名

物 理 学 科

飯塚豊	川名輝子	河村健児	佐々木成朗	福間浩
前橋英明	青井考卓	浅川仁記	飯野陽一郎	井汲景太
石田雅也	出渕卓洋	板倉数哲	板谷治郎	伊藤健靖
稲垣祐一郎	上坂友也	上野正芳	宇治野秀晃	太田裕光
大谷航利	岡部拓也	岡本芳隆	金田英宏	北村智行
窪秀利	小芦雅斗	齋藤芳明	佐藤勇二	佐貫智弘
重國和宏	篠原孝司	柴山明雄	白土昌孝	城石正也
末澤久伸	鈴木清詞	関山明雄	谷太郎博	田村健一郎
田村了生	塚本隆之	峠哲健郎	土記康史	中川美佳
早野博拓	長尾由美子	長門公義	二瓶武智	濱田美治
川宮一敏	廣重憲嗣	細井智彦	堀田淳子	松葉道康
森山茂栄	水田秀行	宮崎冬樹	牟田順	森若狭智嗣

65名

天文学科

大澤具洋
大仲圭一
吉田慎一郎

石丸友里
鹿野良平

伊藤信成
高田将郎

西村正博
松下恭子

白田知史
峰崎岳夫
11名

地球物理学科

有家秀郎
門田晃典
是永淳
坪内健
原田靖
山口和貴

井出哲
河宮未知生
阪本敏浩
中川弘之
古屋正人
山本泰志

猪俣敏
神田径
隅田育郎
羽角博康
松本晃治
吉岡秀佳

岩本弘一
日下拓
仙波秀志
羽生毅
望月公廣

加藤健二
小池宙子
竹内希史
原田智史
森本規之
28名

化学科

秋田健行
大久保晴康
金法順正
木村直人
高橋奈保子
徳田昌弘
西中太郎
松尾武士
矢島章雄

猪飼正道
大野文彦
川口隆文
河野淳也
高橋嘉夫
豊田栄
長谷川淳博
松田建児
山下有子

池野健人
奥村和
川村明
齐木利幸
高見博道
中島秀明
林和弘
松森信明
吉川健一

井上朋也
加来智弘
岸田裕一
末吉剛
武田亘弘
西川洋行
原田潤
三田節子

海老名敦
笠原健三
北野真
千住孝俊
田中秀樹
西田直史
枚田明彦
三森光幸
43名

生物化学科

伊藤文詔
木岡夕子
高橋史峰
西田元彦
森口徹生

尾崎秀徳
佐藤ちひろ
田口友彦
林貴明
山下朗

小塩尚代
白壁恭子
竹中克也
平峯靖

織原美奈子
鈴木匡
鶴田里沙子
三枝理博

加々美直史
高須一恵
外山洋一
森淳
22名

生物学科 (動物学)

赤染康久
世良実穂

尼子大介
原隆人

内田信裕
平野周

小笠原理
前島かおり

児玉晃孝
村岡啓道
10名

生物学科 (植物学)

安東知子
小野貴司
早川敏幸

宇津木孝彦
佐野俊夫
菱田信

大井和之
鈴木邦律
廣戸健太郎

大塚英
滝田陽子
渡部麻理子

大町尚史
野末文雄
14名

生物学科 (人類学)

海 部 陽 介 坂 詰 卓 信 太 光 郎 野 林 厚 志 米 田 穰
5名

地学科 (地質・鉱物学)

木 村 仁 安 藤 葉 子 石 塚 治 小 野 重 明 小 島 知 子
小 林 桂 小 林 公 彦 佐 藤 武 宏 篠 木 正 浩 高 鳥 康 一
土 屋 誠 之 成 田 貴 人 野 嶋 茂 樹 日 向 哲 14名

地学科 (地理学)

川 端 康 夫 荒 谷 義 仁 江 崎 雄 治 木 村 圭 司 齋 藤 法 雄
中 島 みどり 峰 村 健 司 鰐 淵 広一郎 8名
合 計 306名

海 外 渡 航 者

(6ヶ月以上)

所 属	官 職	氏 名	渡 航 先	期 間	目 的
地 質	助 手	小 澤 一 仁	ア メ リ カ	4.4.24~	「上部マントル物質の岩石学的研究」の遂行のため
			合 衆 国	5.5.31	
素 粒 子	助 手	川 本 辰 男	ス イ ス	4.4. 1~	国際協同実験電子・陽子衝突実験のため
			フ ラ ン ス	4.12.20	

外国人客員研究員報告

所 属	受け入れ教官	国 籍	氏 名	現 職	研究員期間	備 考
物理学科	神 部 助教授	ロシア共和国	ZEITLIN, Vladimir	大気物理学研究所 ロシア科学アカデミー 上級研究員	4.3.23~ 4.6.22	
物理学科	桑 島 助教授	ロシア共和国	SEMISOTNOV, Gennady V	ロシア科学アカデミー タンパク質研究所 タンパク質物理学教 室主任研究員	4.5.1~ 4.7.29	

平成4年度科学研究費補助金採択（内定）さる

本年度科学研究費補助金の交付申請に対し、本学事務局経由により同補助金の採択（内定）の通知がありました。（特別推進研究(1), (2)は7月下旬交付内定のため未定）

理学部関係の申請件数および採択件数は次表のとおりで、総額1,379,800,000円（遺伝子実験施設900,000円：外数）でした。

（数学教室からの申請分は除く）

平成4年度科学研究費補助金理学部申請・採択件数一覧表

平成 4.6.1 現在

区分 研究種目	申請件数	採 択 件 数			採 択 率
		新 規	継 続	計	
特別推進研究(1)	0				
特別推進研究(2)	6 (3)				
がん特別研究(1)	1	0		0	0 %
がん特別研究(2)	8	2		2	25.0 %
重点領域研究(1)	19	17		17	89.4 %
重点領域研究(2)	70	28		28	40.0 %
総合研究 A	24 (5)	3	5	8	33.3 %
総合研究 B	10	4		4	40.0 %
一般研究 A	31 (7)	8	7	15	48.4 %
一般研究 B	60 (14) ①	16	15	31	51.6 %
一般研究 C	79 (18) ①	28	18	46	58.2 %
奨励研究 (A)	73	39		39	53.4 %
試験研究 A (1)	1 (1)		1	1	100.0 %
試験研究 A (2)	1 (1)		1	1	100.0 %
試験研究 B (1)	9 (4)	2	4	6	66.6 %
試験研究 B (2)	20 (3)	4	3	7	35.0 %
特別研究員奨励費	105 (29) ③	67 ①	22	89 ①	84.7 %
国際学術研究	24 (8)	7	9	16	66.6 %
合 計	541 (93) ⑤	225 ①	85	310 ①	57.3 %

昨年は、申請件数511件、採択件数280件、採択率54.8%であった。

() 継続申請：内数 ○遺伝子実験施設：外数

理学部長と理職との交渉

2月24日、3月23日、4月20日に、理学部長と理学部職員組合（理職）との定例の学部長交渉が行われ（以下、2月、3月、4月交渉と記す）、3月7日には臨時交渉が行われた。2月交渉と臨時交渉には数学教室主任も出席した。その主な内容は以下の通りである。

1. 職員の昇格・昇給等の待遇改善について

2月、3月交渉で理職は、4級昇格が遅れている天文教育センター（2名）および物理教室の技術系職員の早期昇格を求めた。事務長は、事情は承知しており本部に申請してあるが、結果が判明するのは5月～6月であろうと述べた。さらに事務長は、技術・図書系職員の昇格有資格者は全て本部に申請してあると述べた。3月交渉で理職は、本部で増加しつつある事務系専門職を理学部でも積極的に要求する考えはないかと尋ねた。事務長は、事務主任を充実させることが先決と考えていると答えた。

3月交渉および臨時交渉で理職は、数学教室事務室主任の掛長発令および技術職員の6級昇格を要求した。学部長・事務長は3月31日までは理学部で実現に向けて努力すると述べた。数学主任も、事情は理解しており、最大限努力すると述べた。

3月、4月交渉で理職は、事務主任の6級・5級昇格および掛主任の4級昇格を早急に実現するように求めた。事務長は、実現の有無は6月にならないとわからないが、努力すると述べた。

4月交渉で理職は、4月1日付の掛主任発令の対象外とされた1名について、事情を考慮して早急に発令を行うように要請した。理職は、今回の発令で増えた複数掛主任制が今後拡大するかを尋ねた。事務長は、この形が定着することが望ましいと答えた。理職は、行(二)用務員の3級昇格の条件を質問した。事務長は、複数の用務員をまとめる立場にあることが必要と答えた。理職は、行(二)

不補充政策により部下が入ってこないことを考慮し、方法を工夫して待遇改善を行うように求めた。

2. 定員外職員の定員化について

2月交渉で理職は、一人の該当者の定員化の要望書を、学部長名で本部に提出したかを尋ねた。学部長は、提出したと答えた。理職は、要望書の内容を尋ねた。事務長は、試験合格者中の非採用者が少なくなった時点で、という条件になっていると答えた。理職は、教室側で定数を開けて待っていることも踏まえ、条件にしばられずに定員化を訴えるべきだと主張した。事務長は、その場合には教室で積極的に理由づけをする必要があると述べた。理職は、そのことを教室に伝えるように要請した。事務長は承知したと述べた。4月交渉で事務長は、3月末に上記の件で教室主任と話をし、事情を理解してもらったと思うと述べた。

2月、3月、4月交渉で理職は、もう一人の該当者の定員化の進展状況を質問した。学部長は、教室に必要な書類を準備中であり、近く提出される予定だと答えた。

3. 行(二)から行(一)への振替について

2月交渉で理職は、行(二)から行(一)への振替を4月1日付で実現するように要求した。事務長は、理学部の該当者3名について申請書を提出したと答えた。2月、3月交渉で理職は、該当者を3名同時に申請するよりも、1名づつ申請した方が効果的ではないかと述べた。4月交渉で理職は、4月1日に東大内で振替られた3名に理学部の職員が含まれなかった理由を質問した。事務長は、緊急度や必要性の実態から判断したと思われるが、事情を調査すると答えた。理職は、該当者が長年行(一)相当の業務を行ってきた実績を踏まえて、振替の努力を続けるように要請した。

4. 数理科学研究科設立に関わる問題について

2月交渉で理職は、4月に発足する数理科学研究科の事務組織について尋ねた。数学教室主任は、独立の事務組織を要求していたが認められず、1月の準備委員会で「教養学部・数理科学研究事務」とする方向が決まったと答えた。理職は、この計画では教官組織と事務組織が切り離され、大学に本来必要な事務の形態が失われると主張した。さらに理職は、職員の労働条件が悪化するなどの問題点が多いことを指摘した。

その後、理職は「数理科学研究科の事務組織と職員の配置換えに関する要望書」を学部長と数学教室主任に提出し、両者と臨時交渉を行った。臨時交渉では、学部長・数学教室主任・理職の間で以下の合意が得られた。①数理科学研究科は独立した部局事務組織をもつことを原則とし、その実現をめざす、②教養・数理科学「複合」事務部に理学部等から振り替えられた職員定数11名を、研究科事務の独立時に再び確保できるように努力する、③「複合」事務部設置期間中も数理科学研究科長は部局の最高責任者として職員の昇格・処遇・労働環境・職場環境の改善に責任をもつ、④「複合」事務部に数理科学研究科のために設置される定員については専ら数理科学研究科の業務を行うように努力する、⑤数理科学専門担当の掛を設置し、教官と同一の建物に配置するように努力する、⑥上記掛の掛長には現数学科教室職員を充てるよう働きかける、⑦職員の配置換えの際には本人の希望を最優先させる、⑧その際には本人の承諾なしに技官を事務官に振り替えない、⑨配置換えや振り替えによって将来にわたって不利が生じないように配慮する。

4月交渉で理職は、4月1日付で発令された数理科学研究科の掛長の5級昇格を理学部でも後押ししてほしいと要請した。事務長は、理学部から正式に要望することは出来ないが、教養・数理科学事務部長にその旨を伝えると述べた。

5. 第8次定員削減について

2月、4月交渉で理職は、定員削減が大学の諸活動に支障を与えていることに対し、理学部として改善を要求する考えはないかと尋ねた。学部長は、相次ぐ定削による研究・教育環境の悪化については誰もが深刻に受け止めており、改善要求が総意になっているので、理学部人事委員会でアピール文を作成し、理学部広報を通じて関係諸機関に伝えることを決めたと答えた。

3月交渉で理職は、定年退職後の定員をすべて補充することによって定員削減に対抗してほしいと要望した。学部長は、本部から定員が与えられないので、やむなく補充しないことになろうと述べた。

4月交渉で理職は、今年度定員削減に充てられたポストについて尋ねた。事務長は、退職者3名分が凍結されたと答え、現在空いている地惑教室のポストは定員削減の対象外であり将来補充されると述べた。

6. 大学院重点化について

2月交渉で理職は、大学院重点化で認められた予算の増分の配分方法を質問した。学部長・事務長は、広域理学大講座の予算はまだついておらず、まだ具体的には未検討であると答えた。理職は、事務の定員増がない状況下でどのように広域理学等の運営を行なうのかを尋ねた。学部長は、今後1年間は過渡期であり組織はほぼ現状通りなので、これから順次検討すると答えた。学部長はさらに、大学院重点化の目的は単なる予算増ではなく、将来の定員増や施設の充実なども念頭にておいており、今後の日本の基礎理学のレベルアップを目指していることを理解してほしいと述べた。

3月交渉で理職は、大学院重点化によって事務の業務量が増大するので、事務手続の簡素化が必要ではないかと発言した。事務長は、法律が改正されないと難しい部分が多いので、改正を文部省を通じて働きかけていると述べた。理職は、大学院重点化後の事務官・技官の所属先を尋ねた。学

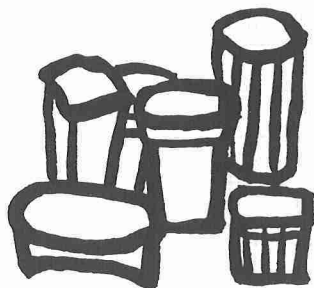
部長・事務長は、省令改正によって93年度にはほぼ全職員が研究科所属となるが、施設やセンターは遅れるだろう、と答えた。

4月交渉で理職は、大学院重点化にともなう組織変更を論議する機関を尋ねた。学部長は、教室主任会議、企画委員会、教授会であり、カリキュラム面は拡大教務委員会で議論すると答えた。理職は、広域理学大講座用の別枠予算の有無を質問した。学部長は、大学院高度化推進特別経費を要求しており、4月下旬には配分が決まるだろうと答えた。理職は、校費の増分を時間雇用職員にどの程度配分するかを尋ねた。学部長は、中央事務以外は各教室の自治に任せると答えた。理職は、

大学院部局化移行への省令改正に併せて、技術職員を技術官として位置づけてほしいと要請した。学部長は、部局化と結び付けるよりも、技官問題の別件として要請する方が良いだろうと回答した。

7. その他について

2月、3月、4月交渉で理職は、先に要請した組合書記局の直通電話とFAXについて尋ねた。事務長は、近日中に大学の備品として設置するが、通話料は私用扱いとして組合負担になると回答した。



教室主任・施設長等名簿

(平成4.4.1現在)

教室・施設名等	教室主任 施設長等氏名	電話番号	自宅電話番号 (緊急連絡先)
数 学 教 室	小 谷 真 一	4 0 4 2	
情 報 科 学 教 室	小 柳 義 夫	4 1 1 5	
物 理 学 教 室	矢 崎 紘 一	4 1 2 3	
天 文 学 教 室	内 田 豊	4 2 6 0	
地球惑星物理学教室	國 分 征	4 5 8 8	
化 学 教 室	岩 澤 康 裕	4 3 6 3	
生 物 化 学 教 室	高 橋 健 治	4 3 8 4	
動 物 学 教 室	川 島 誠 一	4 4 3 6	
植 物 学 教 室	加 藤 栄	4 4 5 4	
人 類 学 教 室	尾 本 恵 市	4 4 8 2	
地 質 学 教 室	速 水 格	4 5 1 8	
鉱 物 学 教 室	床 次 正 安	4 5 4 1	
地 理 学 教 室	米 倉 伸 之	4 5 7 1	
臨 海 実 験 所	森 澤 正 昭	(0468) 81-4105	
植 物 園	岩 槻 邦 男	3814-2625	
素粒子物理国際センター	折 戸 周 治	4 1 6 4	
スペクトル化学研究センター	田 隅 三 生	4 3 2 7	
中間子科学研究センター	矢 崎 紘 一	4 1 2 3	
施設化学実験施設	脇 田 宏	4 6 2 1	
天文学教育研究センター	石 田 恵 一	(0422) 34-3741	
遺伝子実験施設	堀 田 凱 樹	4 1 4 4	
学 部 長	久 城 育 夫	4 0 0 0	
評 議 員	鈴 木 増 雄	4 1 9 3	
評 議 員	田 隅 三 生	4 3 2 7	
事 務 長	大 六 正 志	4 0 0 1	
事務長補佐(総務担当)	川 口 鴻 暁	4 0 0 2	
事務長補佐(経理担当)	金 田 洪 太	4 0 0 4	
学 務 主 任	石 崎 雄 三	4 0 0 3	
専 門 職 員	笹 尾 昭 信	4 4 0 9	

各号館(運営委員)長名簿

(4. 4. 1 現在)

号館名	所属	職名	氏名	内線番号	任期
1	物理	教授	堀田 凱樹	4 1 4 4	4. 4. 1 ~ 5. 3. 31
2	動物	教授	川島 誠一郎	4 4 3 6	4. 4. 1 ~ 4. 7. 31
3	地惑	教授	永田 豊	4 2 8 8	4. 4. 1 ~ 5. 3. 31
4	物理	教授	壽榮松 宏仁	4 1 2 7	4. 4. 1 ~ 5. 3. 31
5	地質	教授	速水 格	4 5 1 8	4. 4. 1 ~ 5. 3. 31
7	情報	教授	小柳 義夫	4 1 0 3	4. 4. 1 ~ 5. 3. 31
化学	化学	教授	岩澤 康裕	4 3 6 3	4. 4. 1 ~ 5. 3. 31

(2号館：4ヵ月交替 動物→地理→植物→人類→動物)

東京大学名誉教授の称号授与

平成4年3月31日付で、停年退官された本学部関係の下記の元教授に対し、5月19日(火)の評議会において東京大学名誉教授の称号が授与されることになり、6月8日(月)理学部長室において久城学部長から授与された。

物理学教室 宮本 健郎

物理学教室 山本 祐靖
 〃 和田 靖
 地球惑星物理学教室 玉尾 孜
 化学教室 黒田 晴雄
 〃 増田 彰正
 生物化学教室 酒井 彦一
 動物学教室 高橋 景一

東京大学職員の永年勤続者表彰

平成4年3月31日付で、定年退職される下記職員に対する総長からの表彰状・記念品が3月26日(木)正午、学部長室において久城学部長から伝達された。

記
 地質 前川 深雪
 植物園 鈴木 實

平成4年4月13日(月)午後3時から神田学士会館において永年勤続者(20年勤続)表彰式があり本学部では下記の方々が表彰を受けた。

記
 天文研 青木 勉
 事務部 阿部 久
 素粒子 井森 正敏
 臨海 植田 武夫
 事務部 根岸 茂

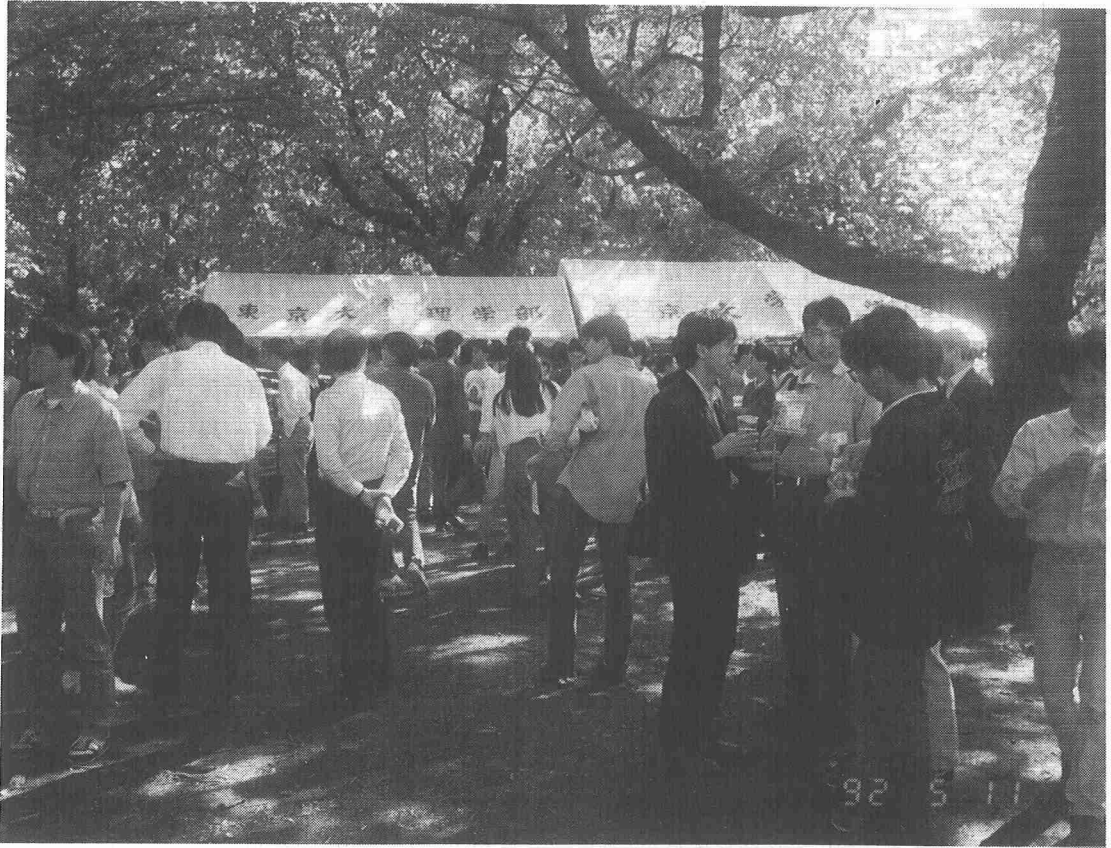
植物園で教職員・学生の懇親会開かれる

理学部では、春の恒例行事となっている教職員と学生との懇親会（ビアパーティ）を、5月11日（月）小石川の理学部附属植物園において開催した。

前日の雨で開催が危ぶまれたものの、当日は打って変わって5月晴れとなり、緑の色あざやかな園内におよそ800人の教職員と学生が集まった。

久城学部長、岩槻植物園長の挨拶があり、田隅評議員の乾杯の音頭でパーティに移った。

名誉教授も交え、各々ビールやツマミを手に語り合い、芝生には教官、学生のくつろいだ懇親の輪がいくつも広がってゆき、新緑とビールを満喫して、和気藹藹とした楽しい一時を過ごした。



「受賞関係」欄について

理学部広報では、受賞関係欄を備え、理学部及び理学系研究科の先生方の活発な研究活動の一端を学内外に紹介いたしております。つきましては、先生方で学会賞を受賞された方がおられましたら、その内容について400字程度におまとめいただき、広報委員会あてにお送り下さるようお願いいたします。

なお、従来から掲載しておりますノーベル賞、文化勲章、文化功労者、学士院賞、紫綬褒章等については、従来どおりの扱いとして取り扱うことにいたします。

広報原稿の募集について

理学部広報では、更に内容の充実を図るため、理学部及び理学系研究科の先生方から、その時々のお話、ニュース等について自由に投稿いただくことにしております。また、今年度は、学部学生、大学院生、外国人留学生の方にも、理学部の印象、学生生活の、エピソード等、自由に書いていただく計画ですので、各教室主任を経て、広報委員会あて投稿いただきますようお願いいたします。原稿には特に制限はありませんが、2,000字～3,000字(2ページ)程度にまとめていただきたいと存じます。

投稿いただきました原稿は、広報委員会において検討のうえ適宜採用させていただきます。広報委員会では、皆様の投稿をお待ちしております。

編 集 後 記

内藤周式先生からバトンタッチし、平成4年度理学部広報の編集を担当することになりました。理学部はいま大きな変革の時期にあります。4月には理学系研究科7専攻が部局化、同時に5つの広域理学大講座もスタートしました。一方数学科は理学部を離れ、数理科学研究科として独立しました。理学部の長年の懸案であった1号館建て替え、中央化についても構想の段階から、いよいよ設計、実行の段階に入り、平成5年度からの着工も期待されています。変革は一度始まると予想を超える内容とスピードで進むことがあります。このような時期には情報を早く広く正確に伝えることが必要であり、広報の使命も大きいと思います。そこで今年度は、改革案や構想に関する解説記事やご意見を掲載するなど、“かわら版”として皆さんのお役にたてるような広報作りを心がけたいと思います。お忙しい中、投稿をお願いする事もあるかと思いますが、どうかよろしくお願い致します。表紙写真と記事はいつでも募集していますので、各号館の担当委員までお持ちください。

(松本・地質)